



第4章

出エジプト記



ヘブル人は、山々を抜けて、紅海に行き当たるところまで道を進んだ。目の前に広がる、広大な海を、どのようにして渡れば良いのか話し合いながら、その場に宿営した。



息子を失った悲しみから我に返った王は、怒りを覚えるようになり、なぜ自分は奴隷達を解放してしまったのか、と後悔した。

戦闘用の馬車を用意せよ！ヘブル人の後を追うのだ！全員連れ戻すか、さもなくば皆殺しにしまえ！

陛下、仰せの通りに。



見る!エジプトの軍勢だ!荒野で追いつめられるとは!

モーセは我々がここで死ぬために連れ出したのか。神から見捨てられたような、こんなところで死ぬくらいなら、奴隷として生きるほうがまだましだ!



エジプトの軍勢は、無力のヘブル人たちを見つけると、モーセがエジプトに対して行った数々の災いを思い起こし、彼らを皆殺しにしようとした。



山々に囲まれ、目の前は海だ。我々は行く手を阻まれ、囲まれてしまった。

もう神にも我々を救うことは出来ない。



その場を動かぬ。神様は、必ず大いなる御業をもって私達を救ってください。

王の心は再び強情になった。しかし、今日を境に、あなたがたはもう二度と、エジプトの軍勢を見ることはないだろう。



エジプトの軍勢が、今にもヘブル人たちに突進してきそうに見えたが、まさにその時、天から巨大な炎が降りてきて、軍勢の行く手を阻んだ。その夜、ヘブル人たちは光に守られ、エジプト人たちは深い暗闇におおわれた。



モーセは、海に向かって杖を差し伸ばした。すると、天から強い風がふき起り、水が分かれて海底の陸地部分が現れた。



これは、まさしく壮大な奇跡であった。イスラエルの子孫たちは、乾いた海底を歩いて渡ることが出来たのだ。

長い年月が経った後も、彼らは、海に道を造られた神のことを詩にあてて歌い続けた。多くの人々が、神が唯一の、主なるお方である、と認識することができるように。



今までエジプトの地で見たものの中で、これに勝る驚きはないわ!

うわあ! やっぱり僕たちの神様が一番すごいね! 海の真ん中にあるなんて信じられないよ。



ヨシヤ! なんてことを! そこから離れなさい! あなたは泳げないんでしょ?



きれいな魚に触りたいだけだよ。



ヘブル人達が、ほぼ海底を渡り終えようとした頃、神は、エジプト軍を食い止めていた火の柱を取り去られた。海が分かれるところを見ていなかったエジプトの軍勢は、そのままヘブル人達の後を追いかけた。



突撃前進!  
ヘブル人は皆殺しにせよ!




今日、あなたがたは全能の神の御力を見るのだ!

見る!海水が元に戻っていく。奴らは溺れ死ぬぞ。



エジプトの兵士達は、皆、海水にのまれて溺れてしまった。木や石でできた、彼らの信じる神々は、彼らを救うことができなかったのだ。



エジプト軍の死体だ。海は兵士の死体で一杯になってしまった。


確かに我らの神は全能なるお方だ。このようなことができる神は他にいない。この日のことを、我々は永久に覚えておこう。

エジプトにいたほうがまだましだったぞ。奴隷でも食べるものはあったからな。でもここには何も無いじゃないか。

そうだ、あんたは我々をこんな場所ですべてにさせる気か？

モーセは何と言っていたの？どのようにして食料を見つけるって？子供達はとてもひどい思いをしているわ。

彼は、全能なる神が、朝ごとに天からパンを降らせると言っているんだ。



海とエジプトの軍勢を後にし、ヘブル人達は雲の柱とモーセに従って、荒野を前進した。道中、エジプトから持参した飲み物と食料を口にして必要を満たした。

数日間の旅の後、雲の柱が導くままに彼らは水源に行き当たった。ヘブル人達はそこで野営したが、やがて食料が底をつきはじめた。周りには食料源となるものは何もなく、望みが尽きたように思えた。

よく聞きなさい。あなたがたは、私に不平を述べているようだが、実際は、我らが従ってきた神に対して文句を言っているのだぞ。

全能なる神は、天からパンを降らせよう、と仰せられている。毎朝、あなたがたは、地の上を覆うパンを見つけるだろう。ただ行ってそれらを集め、食べれば良いのだ。

もうすぐ日が昇るわ。モーセの言う通り、地の上にパンが積もっていると思う？

そうでなければ、餓え死にだ。

でもさ、パンが空から降ってくるなんて、あなた、聞いたことある？

そりゃあもちろんないさ。でも、海が開けて道ができた、なんて話も聞いたことがなかったからねえ。モーセの神は、天地創造の神に違いねえ。天からパンを降らせることもきっとおできになるよ。さあ、日の出の間だ。外に行ってみよう。



モーセの言った通り、天からのパンだわ。

何だって我々はまた疑ったりしちゃったんだ？



見て！いたる所にパンがあるわ。

とてもおいしいわ！ハチミツの味がする！

まことに神は全能なるお方であり、モーセはその預言者だ。



荒野を進み行く間、神は天からのパン、すなわち「マナ」と呼ばれる食べ物を、彼らに与え続けた。「マナ」とは、ヘブル語で「これは何？」という意味を表す言葉である。

雲の柱が水源のそばで止まると、ヘブル人達はその地で野営し、天からのパンを食べて生活した。しかしひとたび雲の柱が動き出すと、彼らはすぐさまテントをたたみ、見知らぬ荒野へと続く道のりを従っていった。



しかしある時、水が不足してしまうという事態となった。

神様はパンを下さったが、もはや我々を脱水症状で死なせる気だ。

水がなければ、この子は喉の渇きで死んでしまうわ。



我々はエジプトに留まるべきだったんだ。動物達が死んで、やがては子供達が息絶える。我々はあんたを石打ちにして殺すべきだ。

神様は我々と一緒にいてくださるんじゃないか？

全能なる神と話してみる。




神はモーセに、  
どうすればよい  
のか示された。

ここへ来て、  
神のお力を見るが  
よい。あなたがたは  
不平不満を言うばかりで、  
神をちっとも  
信じていない。


神はあなたがた  
にパンを与えられた。  
今度はこの何の変哲も  
ない岩から、水をお  
与えになるのだ。

バシツツ!

ひひひひ~!



岩から流れ出た水は、まるで川のように地を潤した。




モーセが神に祈ると、神はまたお語りになった。

わたしがエジプトに下した裁きや、わたしが民をエジプトからどのように救い出したのか、また、食料を与え、岩から水を流れさせたことなどを、すべて民に思い出させよ。

もしあなたがたが、わたしの掟に従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。

モーセ、わたしは濃い雲の中であなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。


再び雲の柱が動き出したため、ヘブル人達は荷物をまとめると、シナイ山と呼ばれる山へ向かって荒野の旅を再開した。



モーセは山を下りてきて神が話されたことを人々に伝えた。


我々は神に従う。神が言われること、全てに従おう。

行って、あなたがたの衣服と身体を清め、神への礼拝に備えよ。三日目に神はシナイ山に降りてこられる。




神が命じた通りに三日目、彼らは山の目前にて、神が語りかけられるのを待った。不思議な雲が山の上に降りてきて、そして…

モーセ、山の頂に来なさい。



モーセ、わたしはあなたがたをエジプトの地よりあがなした、全知全能なる神である。山をおりて、山の周りに境を設けなさい。

この山に触れる者は、誰であれ死ぬことになる。わたしはあなたに十の戒めを与えよう。あなたはそれを民に告げなければならぬ。



あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。

あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である

あなたの父と母を敬え。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。

山をおりてきたモーセは、イスラエルの70人の長老たちを集め、神の十戒を伝えた。

私達は従います。

良い戒律だ。

70人の先導者達よ、私と共に山に戻るのだ。神はあなた方にも、お会いになられるだろう。あなた方自身の目で確かめるがよい。しかし、まず私は神の十の戒律を書き留めなくてはならない。

モーセは慎重に神が言われたことを書き留めた。神の御霊が、彼に間違い一つなく書くことを助けてくださったのだ。

モーセは戒律を書き留めると、人々を集めて神の言葉を読んで聞かせた。


神のおっしゃることは全て正しい。私達は従うぞ。

神は、イスラエルの民と契約を結び、彼らを祝福して命を与え、彼らを敵から救うことを約束された。そして民は、神の掟に従い、義なる歩みをすることを約束した。


神はモーセに、ほふりの捧げものを求め、その犠牲の血を人々にふりかけるようお命じになった。

アロンやモーセを含めたすべての人間は罪人であり、死の報いを受けるべき存在であった。しかし神はあわれみに満ちたお方であり、死の報いを免れる救いの道をご用意された。純真無垢な子羊をほふり、民にその血をふりかけることによって、神は民を生かしてくださった。死ぬべき多くの罪人達の身代わりとして、罪のない子羊が命を落としたのである。

あなたがたの罪は覆われた。あなたがた70人は、私とともに山へ登り、神のご栄光を仰ぎ見るのだ。




70人の長老達は、  
モーセの後に従い、  
神がモーセに語られた  
山へと入っていった。



そこに突然、神の  
御座が現れた。

神のご  
栄光だ！




70人の長老達は、  
山の頂で光り輝く神の  
ご栄光の中に消えてい  
くモーセを見つめた。

なんと  
いう美し  
さだ！


栄光に満ち  
ている！

神と向かい合っ  
て話せる者は、  
モーセ以外に誰  
もいないぞ！



モーセ、わたしに礼拝を捧げる場所となる幕屋を、民に作らせなさい。そこには、ほふりの捧げものを置く祭壇と、あなたがたの世代の続く間、わたしが年に一回大祭司と会う聖所を設けなさい。

幕屋の作り方は、わたしが詳しく教えよう。レビ族をわたしの祭司とし、アロンとその息子達、そしてその子孫達を大祭司として任命しなさい。彼らは民に、義の道を進むことを教え、民が罪を犯した時には、贖罪の捧げものを捧げる働きをするのだ。




モーセがああ山の火の中に消えてから、もう数週間経っているぞ。彼はもう死んでしまったにちがいない。

ああ、こんな荒野にいつまでも、ぐずぐずしてはいられない。

我々には、モーセのように、導いてくれる神が必要だ。


金を溶かして神となるものを作りましょうよ。

モーセは死んだ。アロンが我々をエジプトに連れ戻してくれる。金色に輝く神を作ってくれるよ。




愚か者達は、自分の手によって子牛の鋳物を作り、それを神と呼んだ。罪を犯して墮落する前のサタン姿は、牛のような存在として記されている。民はそのことに気づいていなかったが、サタンは民に自分を崇拝させるために、彼らを欺いてそう促していたのだ。

あなたの、その金もちょうだい。



アロンは、民の望む通り、金の偶像を作る手助けをした。



これが、あなたがた  
をエジプトの地から救い  
出して下さった神の姿だ。  
明日、この神にほぶりの  
いけにえと礼拝を捧げ  
ようではないか。


アロンは愚かであった。  
この偶像は神の姿ではない  
と知っていたが、彼は民を  
恐れてしまったのだった。

いかなる偶像も神として  
崇めてはならないと、神  
が戒律として命じていた  
にも関わらず、彼らは自  
分達が作り上げた想像上  
の神を崇拜した。

民は酒に溺れ、裸体で踊り、  
姦淫の罪を犯した。神は、悪魔  
とその使い達を滅ぼすために用  
意した火の中へ、民を送り込も  
うとお考えになっていた。


神はモーセに言われた。「さあ、下りて行け。…  
あなたの民は堕落してしまった。彼らは自分たち  
のために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み  
わたしの怒りが彼らに向かっても上がり、わたし  
が彼らを立ち滅ぼす…。」






モーセは、神との契約を忘れて、偶像礼拝をする民に怒りを覚えた。

あなたがたは神との契約をやぶってしまったのだ!



モーセは、神の十戒の書かれた石の板を砕き壊した。



神は、ご自身のほかに神々があってはならない、と仰せられたのではなかったのか?!あなたがたが自分の手で作った像が、天地創造の神などと言うのか?

モーセは像を打ち砕き粉々に破壊した。



全知全能なる神に従う者は私の側へ、エジプトの神々を信じた者はその場に留まりなさい。

我々はアブラハムとイサクとヤコブの神に従う。

お姿は見えなくとも、紅海をまっぶたつに分けられた神に、我々は従う。



罪の報酬は死だ。全能の神は、彼らは死ななければならないと仰せられている。さあ、剣を取れ。そして、偶像礼拝の罪を犯し続けている者達を一人残らず殺すのだ。



3000人あまりの偶像崇拜者と姦淫をする者達が、その日、すべて殺された。

グサツ!

やめてくれ~!

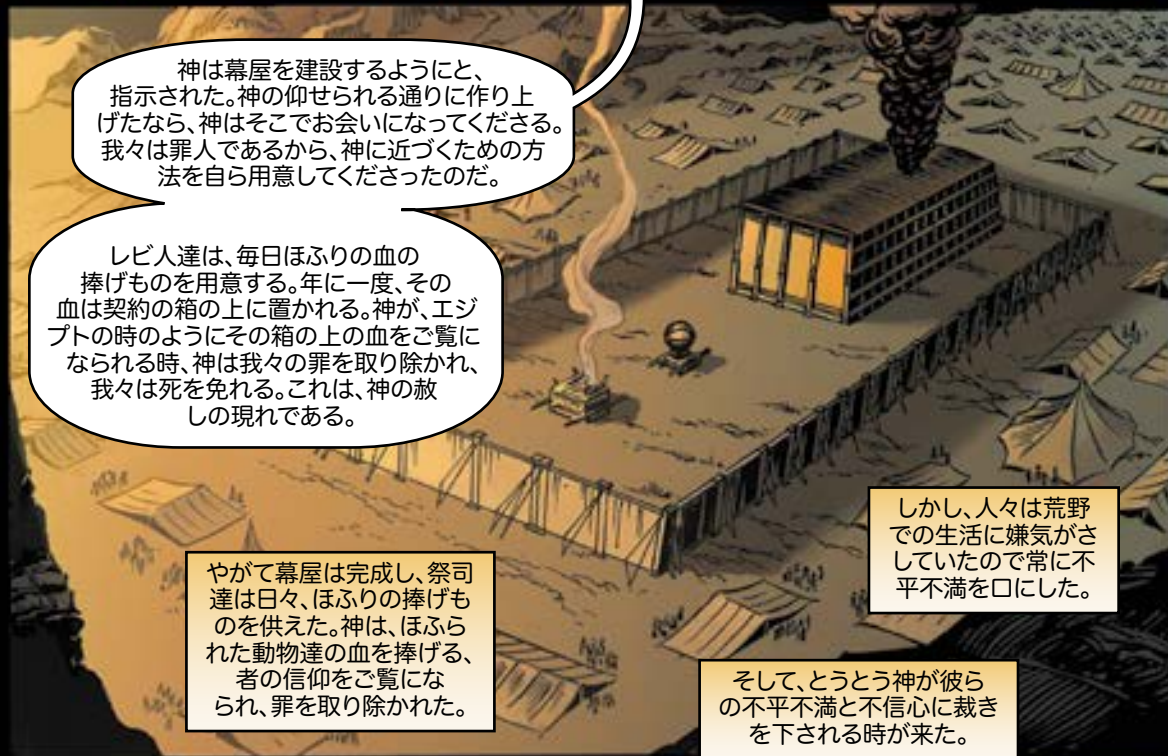
助けてくれ~!



モーセは山に登り、神は再び二つの石の板に十戒を記された。モーセは民のもとに戻ると、神の戒めを提示した。民はその戒めに従うことに同意した。



神は、あなたがたの心がかたくなになり、反抗的であることをご覧になられた。あなたがたが罪を犯したとき、神はすべての民を滅ぼすと仰せられた。しかし私が神に祈り求めた時、神はあなたがたの罪を取り除かれると約束して下さった。全能なる神は、まことにあわれみ深く、赦しに満ちておられる。



神は幕屋を建設するようにと、指示された。神の仰せられる通りに作り上げたなら、神はそこでお会いになってくださる。我々は罪人であるから、神に近づくための方法を自ら用意して下さったのだ。

レビ人達は、毎日ほふりの血の捧げものを用意する。年に一度、その血は契約の箱の上に置かれる。神が、エジプトの時のようにその箱の上の血をご覧になられる時、神は我々の罪を取り除かれ、我々は死を免れる。これは、神の赦しの現れである。

やがて幕屋は完成し、祭司達は日々、ほふりの捧げものを供えた。神は、ほふられた動物達の血を捧げる、者の信仰をご覧になられ、罪を取り除かれた。

しかし、人々は荒野での生活に嫌気がさしていたので常に不平不満を口にした。

そして、とうとう神が彼らの不平不満と不信心に裁きを下される時が来た。



きゃー！見て！へびよ！しかもたくさん！

神は多くの毒へびを彼らの宿営地に送られた。へびは、生きた暖かい肉体を求めて這いまわった。神はあわれみに満ちたお方である。しかし、罪が繰り返されることをお許しにならないのだ。



やがて宿営地は毒へび  
でいっぱいになった。



神よ、  
お助けを!



夜になると、へびは民の天  
幕の中にまで侵入してきた。



助けてくれ!  
噛まれてしまった!



いやあああ〜!



危ない、  
ヨアブ!

お母さん!

子供でさえも、  
その両親の罪のゆ  
えに裁きを受けた。

野営地のあちこちから苦痛と悲観にくれた叫びが聞かれた。罪に対しての報いは恐ろしいものだ。

ますますひどくなっていく。すでに多くの者は毒により死んでしまった。

モーセを呼んでこよう。これはまさに神のなされる業だ。神が、民の罪に対してお怒りになられているのだ。

グシヤ!

神様、どうか、あなたの民にあわれみをお示し下さい。彼らの罪をお赦しください。

神と話をしてくれないか。我々はこの報いを受けるだけの罪を犯した。だが、神にあわれみを示してください。求めてもらいたいのだ。

行って、民に噛みついているへびと同じような姿のへびを青銅で作り、それを旗ざおの上につけよ。民がそれを仰ぎ見れば、噛まれた者も癒され、生きる。

神は罪に対して真面目に対処なさる、ということ、民はいつになったら理解するのだろうか？ 掟に従い、聖別された国民にならねばいけない。



神様は解決の道を示してくださったぞ!あの青銅のへびを見上げれば、噛まれた傷もいやされるそうだ。



死にそうなんです。

いや!大丈夫だ。神様は解決の道を示してくださったんだ。目を開けて見上げなさい。見て、そして生きるんだ!



奇跡だわ!

他の者にも話さなくては!

私にも効いたぞ!みんなに伝えよう!



見上げろ、そして生きるんだ!



なぜ、そんな偽りの希望をもたせるようなことを言って、からかうの？

みんな見上げて治ったんだよ！

分からないのか、もう私はダメだ。そんな戯言を言うために来たのか？



死んでしまったわ。

残念です。彼は信じなかったんだ。

プライドがあったのでしょ。




民は、またしても神の力を目の当たりにした。へびのいるところから宿営地を移し、普段通りの生活に戻ってきた。

しかし、民は引き続き自分たちの思うよう行動し、しょっちゅう神の掟に逆らった。



イスラエルの子孫達は、雲の柱に従った。神は、彼らに天からの恵みであるマナを送り、飲み水も与えた。


神は、民を約束の地へ招き入れることもおできになられたが、彼らが不従順で神の掟に従おうとしないため、あえて40年もの間、彼らに荒野をさまよわせた。



モーセ、お前は自分だけが神に近いと思っているんだろう。我々も同じくらい聖なる存在で、事実、ここにいる群衆も皆同じだ。我々の中に、もはや罪人はいない。神のご臨在があるからな。だから、もうこれ以上お前とアロンに指図されたくないし、裁きを言い渡されるのもごめんだ。我々にもお前と同じように、判断力が備わっているんだ。

そうだ、俺は、ささいなことでも我々を殺すと言う神と一緒に、こんな砂漠をさまよいつけることに疲れ果てたよ。

そうだ、モーセの責任だ。だいたい、我々に期待し過ぎて、厳しすぎるんだよ！



モーセは幕屋へ行くと、神に、どうするべきかお伺いを立てた。

神は仰せられた。「レビの子達よ。あなたがたは多くの責任と力を自分たちの上にもたらせようとしている。わたしがあなたを指名したわけでもないのに、祭司の職まで要求するというのか。」

明日、神は我々の間に裁きを下される。その時、神の祭司となるべき者は誰なのか明らかにになり、聖なる者とそうでない者とが示される。明日の朝、おのおの自分の火血を取り、幕屋に集まりなさい。



翌日



自らを聖なる者と呼び、祭司となって民を裁く者になる、と語る者達よ、近くへ来なさい。

今日、神はこの場で、我々にお会いになられ、選んでくださる。我々は神の力とご栄光を見る。




あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしはこの者どもをたごころに絶滅してしまうから。



彼らの天幕から離れ、そこに近づいてはならない。あなたがたが滅ぼし尽くされることのないように。





これは試みでもある。  
もしこの者たちが、自然に死ぬの  
なら、私を遣わされたの  
は主なる神ではなく、神は  
私の口を通して語られ  
ることはない。

しかし、もし主がこ  
れまでにないことを行わ  
れて、地がその口を開き、  
彼らと彼らに属する者たちとを、  
ことごとくのみこみ、彼らが生  
きながらよみに下るなら、あな  
たがたは、これらの者たちが罪  
を犯し、主を侮ったことを知  
るでしょう。そして私が神の  
預言者である、ということも。

助けてくれ～！

わ——！

やめてくれー！

祭司になるべきだと自負していた者  
たちは、生きたまま地にのまれ、悪魔  
とその使いのために用意されていた、  
よみの火の中へと落ちていった。



彼らの火皿  
をとり、祭壇  
のための被い  
とせよ。

その被金を見るたびに、  
神の戒めを破って自らを祭  
司としようとした者がいた、  
という今日の事を、あなた  
は思い出すのだ。

この日はイスラエルにとって忘れ  
られない日となった。神は、モーセ  
こそが預言者であり、神の命じた者  
のみが祭司になりうることを、明確に  
お示しになられたのである。



神様のご栄光は  
常に我らと共にあり、  
天からの恵みのパン  
を備えてください。

神様のご栄光は  
常に我らと共にあり、  
天からの恵みのパン  
を備えてください。

神は彼らに、引き続き、天からの恵みのパン  
と岩からの水を備えられた。夜は火の柱が、  
日中は雲の柱が彼らを導き、民は、荒野にあ  
って、神の教えを守ることを学んでいった。




祭司達は、幕屋に集い、モーセが命じた通りに日々、ほふりの捧げものを神に捧げた。



荒野において40年の歳月が流れた後、民が約束の地へ入る時が来た。神はモーセを山の頂きに招かれた。地においての最後の言葉を神と交わしたモーセは、横になると静かに息を引き取った。



直ちに彼の霊は神の御前に先導されていった。世の終わりが来て、神がアブラハムに約束された、真の約束の地において、再び彼の同胞と出会うその日まで、彼は神の御元に留まるのだ。




全能なる神が、アブラハムに対し、祖国を離れ、神の示される土地へと旅立ちなさい、と仰せられてから、実に500年あまりもの月日が経っていた。

神が、アブラハムとサラに、息子のイサクを通して大いなる国民が生まれる、と仰せられた約束は、成就した。後にイスラエルと名前を変えたヤコブの、12人の息子達は、やがて12部族へと成長し、人口は増え広がっていった。


彼らは奴隷から解放され、モーセに従って荒野をさまよひ、神のおきてを授けられ、そしてついに、神の約束された地に入ることとなった。荒野を旅している間、常にモーセの傍らに付き添っていたヨシュアという少年は、モーセの言動を見て学ぶことにより、イスラエルの民を導くために必要な知識を備えた。

少年ヨシュアは、成長し、強き勇者となっていた。



モーセが神の御元に旅立った後、彼に代わって民を約束の地へ導く指導者として、今度はヨシュアが神に選ばれた。

見知らぬ土地で寄留者となり、400年もの間、苦役を強いられた後、やがて彼らは父祖の土地へ帰ってくる、という預言の言葉を、民は覚えていた。神は約束を成就してくださったのだ。



民がヨルダンを越えると、天からの恵みである、マナと呼ばれる食物は途絶えた。そしてその代わりに、民はその土地の産物である新鮮な食べ物を口にするようになった。

あなた、神様は私たちに素晴らしい土地を与えてくださったわね。

ああ、ここは、子供達を育て、この子達に聖さと平安の中に生きることの大切さを教えるのに最適な場所だ。